

『×切近いのに麦茶セツに励んでしまった件』 初稿

キャスト

先輩 ○○

ミキちゃん 和泉あやか

【収録メモ】

●全モノラル収録

●ミキちゃん

- ・一人称…私(わたし)

・現場はオタ女子一人暮らしの「LDK」の部屋（少女☆歌劇 レヴュースタァライトみたいな戦う女の子アニメの百合オタク）

- ・25歳派遣〇〇で土日はオタ活に励んでいるオタク女子。

・性格は穏やかでおっとり。流されやすく快樂に弱いタイプ。先輩とは仲が良すぎて砕けた言い回しをしますが、リアクション柔らかめです。

トラック1 夕切4時間前・15時

■先輩の部屋

//SE 部屋の外から聞こえる元気な蝉

//SE PCキーボード音 やがてC.O.

先輩 「んー（伸び）、もう3時かー。ちょい、おやつ休憩しよう！」

ミキ 「はー」

先輩 「ミキちゃん、麦茶ちようだいー。缶カンの中……お菓子入ってるから、何個か取って……」

ミキ 「（立ち上がりながら）はいはい」

//SE キッチン 冷蔵庫開けて麦茶を作る音など

ミキ 「はいどーぞ」

先輩 「じゅーじゅー！ ぷはー、もっと氷入れて、キンキンにして飲みたいー」

ミキ 「んもう、自分ちなんだから自分でやってくださいよー」

先輩 「ミキちゃんに入れて貰った方が美味しいからー」

ミキ 「かわりませんよ……」

//SE キッチン 冷蔵庫開けて麦茶を作る音（氷入れる音）など

ミキ 「はい、どーぞ」

先輩 「ありがとー。とお、そっちの進捗はっ」

ミキ 「今日の19時Jミットですよね。Jの調子でなら余裕でいけそうです。カラーイラスト一枚増やします」

36
37 先輩 「まじかー……」
38

39 ミキ 「先輩は？」
40

41 先輩 「んー、まあ、ほちほち……」
42

43 ミキ 「……てことは、ヤバいんですね」
44

45 先輩 「いや、ヤバいってことはないんだよ？ もう話の筋は全部出来てるん
46 だから、書けばいいだけで。……書けば……書ければ」
47

48 ミキ 「……書けないんですね」
49

50 先輩 「なんでなの？ うちとら推しのアニメも漫画も我慢して原稿やって
51 たのに、なんでもう×切4時間前なの？ 11までの時間、どこに溶け
52 たの……？」
53

54 ミキ 「さっきからタイプ音より、バックスペースキー連打する音の方が
55 鳴り響いてましたもんね」
56

57 先輩 「そりゃ、書きなげるだけなら出来上がるよー！
58 でも、チカエリだけは妥協したくないの！
59 完璧な二人しか世に送り出したくないのー!!」
60

61 ミキ 「でも新刊飛ばしちゃう方が……」
62

63 先輩 「ハンパなもの書いてそれが残る方が嫌ー！」
64

65 ミキ 「気持ちはわかりますけど……。どこで止まってるんですか？」
66

67 先輩 「チカがエリナと成り行きでやっちゃって……
68 せーのこのあとのマグファイアシーンでね」
69

70 ミキ 「せの、マグファイアやめてくだろーよ」
71

72 先輩 「クライマックスのシーンなんだよ。二人とも罪悪感に苛まれながらも、
73 身体が負けてく……みたいにしたくて」
74

75 ミキ 「野球選手ですからね、マグワイアって」
76

77 先輩 「負けてマグワイアしてくみだいな……」
78

79 ミキ 「www 冷めちゃうから。マグワイアで表現すんのやめてくださいっ
80 てば」
81

82 先輩 「www。なんかさー、うわっ面で薄っぺらっていうか、リアルじゃな
83 いっていうか……。ここなんだけど……クニシながらのこーゆーポー
84 スって可能なのかな？ ちょっと、実験させてくれない？」
85

86 ミキ 「えええー、……やですよー」
87

88 先輩 「お願い！ そっち、結構進んでるんですよ、私全然なんだよー、
89 人助けだと思って……」
90

91 ミキ 「えー、休憩したいんですけどー」
92

93 先輩 「じゃあ、新刊落とすよ！ 私との合同誌って忘れたの!？」
94 自分が言ってたんだよ、新刊落とすよりはってー」
95

96 ミキ 「www んもう、わかりましたよ。なに、びっすねばいいんですか」
97

98 先輩 「ちょい、ソファに寝て」
99

100 ミキ 「……? www」
101

102 先輩 「私、シックスサインの形で乗っかるから……」
103

104 ミキ 「ちょっと、お手入れあんましてないんで、見ないでくださいよ」
105

106 先輩 「大丈夫だよ、この一か月はお手入れより原稿だから。
107 (ミキの上に乗る) よいしょっと……」

108
109 ミキ 「痛っ、いたたたっ、先輩、足の肉、踏んでる……」
110
111 先輩 「あ、ごめんごめんw 足の肉で w w w」
112
113 ミキ 「w w w w」
114
115 先輩 「ちよい、足、開いて。ここに頭入れさせて……」
116
117 ミキ 「w w w いや、ちよっと……w w w」
118
119 先輩 「舐めながら……じつ、手を伸ばしたら……」
120 ああ、ミキちゃんくらいあねはおっぱいに手が届くのか……」
121
122 ミキ 「やだっ w w w」
123
124 先輩 「あー、なるほど、ガッツリつかむのは難しいけど、
125 乳首いたずらするとかはいけるねえ……」
126
127 ミキ 「(ちよいちよい手が乳首に触れる) やっ、あんっ」
128
129 先輩 「ごめん、もつちよっと……頭入れさせて……」
130
131 ミキ 「や……w w w、せんぱ……っw w w、息があたって……w w w」
132
133 先輩 「……………(無言でミキの胸触っている)」
134
135 ミキ 「(笑いながらも胸触れられてのリアクション)
136 w w wんふっ……………あっ、ちよっと、先輩……………んんっ」
137
138 先輩 「……ねえ、これ、スポブラ？ 乳首立ったの……………すべわかるじゃん。
139 安いブラしてんねえ w w」
140
141 ミキ 「先輩んちで作業するだけなんですから……………楽なヤツ、が、いいんです
142 よっ……………」
143

144
145 先輩 「はあーん、ミキちゃんてモチモチで柔らかい……。
146 ふかふか太ももで頭挟まれていると癒される……。
147 疲れた脳みそにミキちゃんのマッシュマロおっぱは癒されるんねん。
148 ……ガン揉みしたい……伸びないかな、「っ」
149
150 ミキ 「伸びませんよｗｗｗｗ もう、検証済んだんならもうっしていただろう」
151
152 先輩 「……………なに濡わってる」
153
154 ミキ 「あ、汗ですよ！ 先輩の部屋、クーラーの効きが悪いから……
155 シロシロ見なっしていただろう」
156
157 先輩 「はあー？ うなるっつて居るよねー…
158 私……いじつにまともに寝てなっつ……
159 ちょうど昨日から排卵期で……ムラムラしてんだよね……」
160
161 ミキ 「知らなっですわっ、もうー。
162 ……っゝ、……まだ、嗅がなっしていただろう」
163
164 先輩 「(ミキのパン「わねね」……濡わしねよなネ」
165
166 ミキ 「えっっー」
167
168 先輩 「ちよっとお……、かわいらしいわねなっしてねね。
169 抑えきれなくなっっちゃっうじやなっ……」
170
171 ミキ 「じゃあ、そんなっつて弄んなっしていただろう……んっ」
172
173 先輩 「(パンシ越っつて弄りながら)だっつ……いじ、エントン通っしてねよー。
174 ねえ、いっわ、汗じゃなっよなえっ？ ミキちゃん……濡わしねよなネ……っ」
175
176 ミキ 「(10秒程・声抑えっつ、パンシ越っつて弄りて堪える無音態△△)
177 やめ、っ、っだわら……。ほえっ……怒る……おっやめ。
178 (めっっちゃ可愛さ気配)んあめっー」
179

先輩 「へっそお……かわいらし声、やめろっつってんに……！
(クニニ)ちゅぷ……」

ニキ 「んあっっー」

先輩 「んちゅんぬん、じゅんぬ、んちゅっちゅちゅんぬん……
ねえ、ニキちゃんも溜まってんじやん……んちゅん、
すんじゅ……クニちゃん膨らんじゃってるよ……っ
ちゅぽっちゅぽっちゅぽっ……っふふ、吸いやすい……んじゅぷっ
…」

ニキ 「ちよっ……！ どっ舐めてんですかっ……あっんっ！
(10秒程・声有り・息AD)」

先輩 「(クニニしながら)ニキちゃんが悪いんだからねっ、私は小説のために、
ポーズの検証したかっただけなのに……こんな、エッチな身体して、
エッチなおいさせて……かわいい声出して……私のこと誘うから……」

ニキ 「(10秒程・音有・息AD)責任転嫁……しなっで、ぐだわっ……」

先輩 「じゅめん！ もう止まりませんっ！ 私達の合同誌のため、
緊急取材を開始させて頂きますー」

ニキ 「……え？ (//SE 襲い掛かっつてくる衣擦れ)きゃー！
やだ、ちよっど、ストップ……せんばああああい！！」

終わる

216

●トラック2 ヌ切3時間前 16時

■先輩の部屋

218 先輩ちゃん後ろから抱きかかえられ、胸を揉まれながら
219 激しいキスを受けている
220
221

222 //SE 元氣蟬

223 //SE 衣擦れ

224

225 //AD 先輩、攻めキス（声無し息・15秒）

226 //AD ミキ、受けキス（声無し息・15秒）

227 ※胸を揉まれて感じている雰囲気も息に入れて下さい

228

229 先輩 「（キスしながら）……っはあ、このおっぱい最っ高……。

230 じつやっつて、後ろから揉みしだくの……夢だったんだよね」

231

232 ミキ 「（キスしながら）乱暴に……しない、で……」

233

234 先輩 「（キスしながら）んっ……んんっ……癒されるっ……」

235

236 ミキ 「ブラ……崩れちゃう……」

237

238 先輩 「ん……脱いじゃお、ね」

239

240 //SE 服脱がす衣擦れ

241

242 ミキ 「（脱がされながら）んっ……、んんっ。

243

244 なんて、脱がすんですか……っ、もう、いいでしょ……」

245

246 先輩 「（せっせっミキを脱がす息AD）」

247

248 ミキ 「え……下、も……!? ちょっと、先輩……」

249

250 ほら、もう4時になりますよっ……取材は十分でしょ……!?
もう書き始めないと……」

251
252 先輩 「足開いて……」
253
254 ミキ 「せんぱっ……（キスで口塞がれる）んっっ……んんっ……」
255
256 //先輩AD 10秒程・キス息・声無し息のみ
257 //後輩AD 10秒程・キス息・声と息が1対9くらいの息
258
259 先輩 「……っはあ、そんなこと言いながら、ミキちゃん……びちよびちよ」
260
261 //SE アソコ触れる水音
262
263 ミキ 「んっっっー！」
264
265 先輩 「（くりをふんわり弄りながら）はああ……ミキちゃんのアソコえっち
266 ……」
267
268 ミキ 「（くり弄られる感じ息入れながら）っはあ……っっー！
269 ホントに……やめ、ましよ……私も、仕上げ……まだ、なんですから……
270 間に……合わなくなっちゃ、う……」
271
272 先輩 「でも、……こんなヒクヒクして切なそうだよ……っ。
273 ちゃんとイカせてあげないと、私、気になって原稿なんかできないよ……」
274
275
276 ミキ 「ダメだってば、せんぱ……っっんああっー！」
277
278 先輩 「あっ、指……ミキちゃんのが飲み込んでっちゃっよお……」
279
280 ミキ 「ぶああっ……っ！ あっ、あっ……ダ、メ……なのに……っっ」
281
282 先輩 「ああ……ん、ミキちゃん……指全部入っちゃったよお……
283 べっじよう……ギュウギュウ締め付けてきて離してくんないんだけど
284 ……あ、あ、すっじ……い……ミキちゃん、べっじだらいいっ。」
285
286

287 ミキ「…つゝあっ、んあっ、あ、あ……はあはあはあ……んっ、
288 じゃ……あ、これ、イッたら……作業再開、しましょ、うね……っああっ」
289

290 先輩「うひひひ……了解。」
291

292 //SE 手マン水音
293

294 ミキ 「(次の先輩セリフ合わせ、喘ぎAD
295 動きとしては、手マン→クリ責めながらの手マン手→三点責めの流れ)」
296

297 先輩 「はあ、はあ、はあ…すっ…ミキちゃんてそんなえっちな顔すんだね…
298 …ひひ、うっ？ うっ好き？ ……ww 腰がへこへこして返事してる
299 w
300

301 そっ、きもちーよーって。きもちーよーって。うひひ、えらいねえ、
302 エッチな身体だねえ、ご褒美に……中、いっぱいいい子いい子してあげ
303 ようね……はあはあはあはあはあ……えへへ、きもちよきそー、
304 指……増やしちやおうかな……んっ……んひひ、きつつ……ww
305 これでさあ……親指、クリちゃんに添えてね、こっ……擦ったら……
306 どお？ いいねー、いいねー、うんっ、きもちいいねー、
307 ヤバいでしょ、……これ、で……ひひひわおっはいも……

308 あーむっ(乳首責め)んちゅるる、ちゅぽっ、ちゅぽっ、ちゅぽっ、
309 ……んひひ、声大きいよ……おっぱいきもちーのっ。
310

311 ミキちゃん、乳首弱かったんだね…うひひ、うめんね……気が付かなく
312 て。んじゃ……うっぱい舐めたげるね。ㄥㄥㄥㄥㄥㄥ……んじゅる
313 っ、んちゅっ、ちゅるっ、んちゅるる、んはっ……んっ、ああ……ん、
314 すっこっ締まる……ミキちゃん、イキそ……っ。」
315

316 ミキ 「あー……あー……イ、ク…これイク……クリちゃん……もっと
317 っびして……おっぱい、もっと……っよ、く……もっと吸って……あ…
318 ああっ！っあああ…ああ……っんっ……きもち……うっ……」
319

320 先輩 「……！ ミキちゃん、かわいいっ ！！うん、うっぱいシッあげるね、
321 うっぱいイっうね！！ (おっぱい吸っつゝ)あむ…んっー」
322

//SE 水音激っゝ

323 先輩 「(次のミキ喘ぎに合わせ激しい責め息△D)」

324 325 ミキ 「ああっ！ ああっ、ああっ、ああっ、……イイ…イイ…

326 きも…ちィィ、よお……っは、っは、っは…そこ、そこそこ……っ

327 っ！ んああんっ、ん……っつつう…っ…っ…あ……！

328 あ…あ…あ！ あ…あ…っん…っ！ んん………！ もおおっ

329 …っ…っ…う、だ…あめえ…え…も…っ…う、イク………！

330 先輩、イク、イクイクイクイク…んんんあっ！ イっちゃっ…

331 …イック…っ…っ…っ…っ…っ…っ…！！！！」

332 333 先輩 「んあああっ！」

334 335 //SE 潮吹き水音

336 337 ミキ 「……っあ、あ、……あああっ……はあ………はあ………はあ

338 ……はあ………はあ………」

339 340 先輩 「……ああ、すこ…い……ミキちゃんすごいイっちゃったねえ……」

341 342 ミキ 「はあ………はあ………もう、恥ずかしい………！

343 ……これで、気が済みましたか。じゃあ、原稿……」

344 345 先輩 「やだやだ……ミキちゃん、私のも触ってえ……、

346 私まだ気持ちよくなってないもん…」

347 348 ミキ 「ちよ、約束が違っじゃないですか」

349 350 先輩 「触りっこじょうよ…… (キスする) んんっ」

351 352 ミキ 「(キスされながら) んんっ……… んんっ、あうっ………せ、先輩っ…

353 (アソ)触れられる //SE水音)

354 んんん！ あっ、んあっ……わた、し………いったばかり……

355 イったばかりだからああ……」

356 357 先輩 「(服、脱ぎながら //SE脱ぐ衣擦れ)

358 ……っはあ、ねえ、私のも脱がせて……」

359
360 ミキ 「(先輩の服脱がせる手伝い息AD ちょっと興奮)」
361
362 先輩 「(ミキの手を取り、自分の股間へ)……ほら、私のも触ってよ」
363
364 ミキ 「(触れる//SEE水音)……あ……ああ……すじ……熱い……はあはあ
365 (10秒程・先輩のアソコ弄る息・声無し息AD)」
366
367 先輩 「ね、もう、我慢できないの。さっきからミキちゃんのエッチな声
368 いっぱい聞いて……ミキちゃんにえっちなこといっぱいして……
369 ミキちゃんの気持ちよさそうな顔見てたら……
370 もう、アソコが……ジンジンして辛いよお……」
371
372 ミキ 「はあ…はあ…せ、んば……」
373
374 先輩 「指、入れて……ぐちゃぐちゃして…よお…」
375
376 ミキ 「……！(指入れるAD息 //SEE水音)」
377
378 先輩 「……っんふっんっん！」
379
380
381
382
383 //AD 先輩、手マンして、されて、感じている息(無音息)・15秒
384 //AD ミキ、手マンして、されて、感じている息(無音息)・15秒
385
386 ミキ 「はあ、はあ、んっ！ んもう！ ホントにバカじゃないんですか!?
387 こんなことしてる時間ないのに……！」
388
389 先輩 「ん……！ っ……！ はあ…あ…ああ…あっ、あ…あ…あ……！
390 ミキちゃんが悪いんだもん、ミキちゃんがこんな……かわいいから……」
391
392 ミキ 「んっ！ バカ先輩！ バカ！ すけべ！ ヘンタイ！
393 信じ……らない！ あああ…っん…んん…っ」
394

395 先輩 「んんー！ んっ、んんっ、ミキちゃん、ヤバい……気持ちいい…私、
396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430

398 ミキ 「んっっ！ おっぱい…ダメだってば……んはっ！ あ、あ、ああっ」

400 先輩 「んじゅるっ、ちゅぽっ……ほら、空いてる手で私のおっぱいも触って
401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430

403 ミキ 「……もう！ ああああ…ん…ああっ！ ん…んん、はあはあ……
404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430

406 先輩 「んんっ！ あ、あっ……ミキちゃんの汗もおいしーよ」

408 ミキ 「あんっ…やだ、飲まないで……へんたい……んふっっ…ああ」

410 先輩 「はあはあ……ミキちゃん、チューしよ……」

412 ミキ 「(キス) んっっ…んふっ…んんっ、んっ、んちゅるっ……
413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430

415 先輩 「(キス息AD) ミキ、ちゃ……舌、あま、い……んじゅるるっ、ちゅるっ」

417 ミキ 「んはっ……っっっ！ んっっ！ そっ……や……っああ
418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430

420 先輩 「ミキちゃんは……強めじゅるるるるの……好きなんだよねえ。
421 422 423 424 425 426 427 428 429 430

421 ミキ 「んっっ…、んふっっ…、じゅっ。 じゅっ。 じゅっ、」
422 423 424 425 426 427 428 429 430

424 ミキ 「(いろいろなところキス) んちゅっ、ちゅるっ、ちゅっ、ちゅっ…んちゅ
425 426 427 428 429 430

427 ミキ 「(耳舐め) んちゅっ、じゅるるる……」
428 429 430

429 ミキ 「んああんっ、耳……だ、め……んは、ああっ……」
430

431 先輩 「んんっ、締まるっ……そっ、耳もダメかあ……
432 ミキちゃんてホントえっちな身体してる……んんっ」
433

434 ミキ 「はああっあ……あ……ん……っ！
435 (攻めに転じようと頑張る息) 先輩……の、ばかあ……っ！」
436

437 先輩 「んあっ……！ ミキ、ちゃ……はげ、し……んん、ふふ、
438 自分だって発情してるんじゃない……んあっ！ そっ、いい、いい……
439 あっあっあっ、んんっ、ミキちゃ……上手……っ！ んあっ、それ、
440 感じ過ぎちゃう……よおおお……ん……うううっ！ ……ああ……あ！
441 ああ……あああ……！ ん……っ！」
442

443 ミキ 「(10秒程・激しめの攻め息AD・声有)
444 んううっ、せんぱ、い……あ……あ……あ……ダメダメダメ……
445 ま、た……イッちゃ……うっ……」
446

447 先輩 「っはあ、はあ、んっ……まだ、ダメだよお……イッちゃだめ……だめ……
448 我慢して……」
449

450 ミキ 「ひひひひひ……あああ……や、あ、……ダメ、頭……おかしく、な
451 めひひひ……」
452

453 先輩 「ダメダメダメ……我慢して……我慢我慢我慢我慢……まだイッちゃ
454 ダメ……一緒にイクんだよ……ミキちゃん……私、と……一緒に……
455 んんうっっ……あっ、みぎ、ちゃ……かわいい……みきちゃん、かわいい
456 ……」
457

458 ミキ 「(15秒程・言葉にならないなにかを訴えながらのアヘアヘ喘ぎAD)」
459 「あー……あー……気持ちいい……気持ちいい……
460 ミキちゃん全部気持ちよ……あっ……あっ……あっ……あっ……あ
461 ……あっ……わ、たし……も、イキそ……」
462

463 ミキ 「せん、ぱい……イク……も、だ、め……イク……イク……イクイクイク
464 イクイク……！」
465
466

467 先輩 「うん、うん、イク……私もイク……ミキちゃんデイッチャっよおお…
468 ……」
469 ミキ 「イク、ますっっっ……んっっっっ……！ んあああっ！！」
470
471 先輩 「イ、くっっっ……っっあああ！！！！」
472
473 //SE 潮吹き
474
475 ミキ 「……っああ…あ……あ……はあー……はあー……はあー……」
476
477 先輩 「……っああ…あ……あ……はあー……はあー……はあー……
478 み、きちちゃ……ん。しゅ……っ、かったあ……」
479
480 ミキ 「はあー……はあー……満足、しましたっ。」
481
482 先輩 「うん……あんたって、最高……（キス）んちゅっ……」
483
484 ミキ 「（キス受けながら余韻と雰囲気にもれる）
485 んっっっ…せ、んぱ……んむっ……ちゅるっんちゅっ……
486 はあ、先輩……せんぱいいい……ちゅるっ……」
487
488 //二人AD
489 15 秒程・イチヤイチャ余韻感じながらのラブラブキス息・声有り
490
491
492
493 //SE セミの音少し大きく
494
495 //SE 水音 麦茶氷が解ける音
496
497
498
499
500
501
502 蝉とキス音 f.o.

終わる

●トラック 2時間前 17時

■先輩の部屋

//SE ひびく

先輩 「(麦茶飲み干すAD)っはー、ぬるる……ミキちゃん、冷たいの入れて。氷キンキンの」

ミキ 「だから……自分でやってたわらってばー……もう。(立ち上がる)もうちょっと……」

//SE キッチンで麦茶、氷入れている音

先輩 「えへへ……」

ミキ 「なんですか？ きもちわるさ」

先輩 「なんか、お尻丸出して麦茶注いでくれているミキちゃん……新鮮だな……」

ミキ 「ちょっと！ どうしてるんですか！ 麦茶持っていきませんよー！」

先輩 「いめんいめん！ もう、身体じゅうの水分全部汗になっちゃって、喉カラカラ……麦茶くだわさー！」

ミキ 「まあお……。ちさ」

//SE 麦茶置く音

先輩 「いひひひー おかわさー！」

//SE 麦茶……ひびく

ミキ 「うわ、こんな時間……どうすんですか、結構時間ロスしちゃいましたよ？ 私、カラーイラスト諦めます……。こっから急いで残りを仕上げねば、なんかかなる、か……な……？先輩は？」

538 先輩 「書きたいこと全部取材出来たから……！」
539 それ思い出して書くだけだから楽勝！」
540

541 ミキ 「もう5時過ぎちゃってますよ、間に合います。」
542

543 先輩 「身体中ベトベトで気持ち悪い……シャワー浴びたい……」
544

545 ミキ 「そんな時間ありませんよ、このまま続きやりましょう！」
546

547 先輩 「おお、もうやる？ おっけー……」
548 (ミキの胸元にキス) んちゅっ……ちゅっ」
549

550 ミキ 「あんっ！ ちょっと……その続きじゃありませんってばー！」
551

552 先輩 「ねえ、見て(口に氷入れる)氷、啜えるじゃん？ ……んふふ。
553 (胸に吸い付く)あーむんっ！ んちゅるるっ、んじゅるるるっ」
554

555 ミキ 「んあっ！ つめ、た……っ！ それで乳首吸わないで……！
556 ホントに……ふざけ、てる……場合じゃ……」
557

558 先輩 「ほら、ミキちゃんも汗だくじゃん。じっしてさ……氷で全身舐めて……
559 身体冷やしてあげる……んちゅるるる」
560

561 ミキ 「んはあう……！ やっ……、つめた……くすべった……！
562 W W W ちよ、やめ、て……先輩いい……んあうっ、あ、あ、んはあ……
563 ……ッ」

564 先輩 「(15秒程・全身舐めまわすAD)」
565

566 ミキ 「(15秒程・先輩のいたずら耐える息AD)」
567 も、もう……私……さっき、イキすぎて、無理い……体力ないですよ
568 お」
569

570 先輩 「っはあはあ……んんっ、かわいいよお……。せっかく落ち着いたのに、
571 ミキちゃんずるいよ。……ごめん、またかわいい声聴きたくなっちゃっ
572 た…… (言いながら指入れる)」
573

//SE 指入れる水音

「……ッく！（指入れられる息AD・声無し）」

「私、なんで今までミキちゃんに手出さなかったんだろ……」

//SE 手マン水音

「（手マンされる息AD入れながら）」

「ああっ！ いきなり、指、入れないで……そんな、こと……」

「すじい、いい、ミキちゃん……クセになりそう……」

「は…あ…っ！ あ…ッ…ッ…あんん………！ あ…っ！

ん…んああっ、んん…っ！」

「ちゅっ、んちゅっ…声、かわいい。反応、かわいい。いい匂い、
なんか甘い……もう、なんなの。かわいい、本当に。……ミキちゃん
もう、このまま私の女になってよ」

「（手マンされる息入れながら）なに、バカなこと、言ってんですか……
っふあ…んんっあっ」

「ねー、そうしようよー。いいじゃん、身体の相性もいいし……さあ…
…っんちゅっ……ちゅっ」

「は…ああ…っあ……や……で、す………うあ！

んんん…あああ…！ んん…ッ………！ ああああっん……ん」

「私のものになれっば」

「（メチャクチャ恥ずかしい）……ッッッ！

（ガバっと起き上がる）……んもう！ このっ……バカ先輩っ！

（ミキ、カつくで先輩を押し倒し、足を持ち上げる息AD）」

610 先輩 「……きゃ！ えっ、あっ、やっ……痛いっ…どした…ミ、キちゃ…
611 っ！」
612

613 ミキ 「(貝合わせの体勢に入りながら)
614 いかげん……満足してくだわっ…
615 (貝合わせして腰振る) んっ！ んふっ！ んあっ！ はっ……！
616 (15 秒程・攻め息AD・声無っ)」
617

618 //SE 貝合わせ水音
619

620 先輩 「ああんっ！ あっ、あんっ！ こ、れ……貝合わせってヤツ……!?
621 ああ…んっ！ ミキちゃん、ナイス……！ この取材、忘れてたあああ
622 んっ！ んんん…あ！ んん…う…う…！ ああっ！ ん！
623 ん！ んん！ …っ…っ…ミキちゃんの擦れ、て……るっ……！」
624

625 ミキ 「…ハッ…ハッ…ハッ！ 早く……イッて、くだ…やい！
626 原稿、やらないと……！ んんっ、んはっ、んあっ、あっ、あっ、うう」
627

628 先輩 「はああ…はああ…強情…だなあっ……！ んっ、あっ、私、も……タ
629 イミング……分かってきよ……。
630 (タイミングよく腰突き上げ) じっ、でじょっ！」
631

632 ミキ 「んひゃっ……！ ああっ！
633 (15 秒程・突き上げられて感じる息AD・声有の)」
634

635 先輩 「んふふ、いめんね、ミキちゃんにはっから頑張らせちゃって……はあ、
636 ああ、あ！ あ……ミキちゃんのクリと、私のクリ…べちゃべちゃにな
637 ってキスしてるよおお……ああ…ああ…あああっ！ ほら、見てみて
638 よ……んあああっ…あ……っん…ん…うふふ、めっちゃえっちい……あ
639 ああっ、すっ…、あああ…べちゃべちゃああっ…うん…ん…ん！」
640

641 ミキ 「ああー……ああー……もおおお…ダメ、これ、やあ……きも、ち
642 …ィィ……また気持ちいいい…よおお…ああー…すっ…しゅい…
643 せんぱい、しゅい…きも、ち…ですっ…せん、ぱああんっ、
644 せ、せんぱい……あっ、気持ちいいいい！ あ…あああ…んんん
645 っ！ ッ…ッ…あああ…あんんっ！ あああ、ああ、あああ！」

646 先輩 「あ……！ ああああ……！ ん……んッ……ッ！ ね、気持ちいいねー、
647 じゅじゅ……う……あ……ああん……んー！ ミキちゃ……やじー……だよ……。
648 （動きを止める）んっ……はあ……はあ……はあ……はあ、うふふ」
649

650 //SE 取合わせ水音 c.o.
651

652 ミキ 「はあ、はあ、……えっ、 ゅっ、じゅ……なんでやめちゃうんですか……」
653

654 先輩 「ミキちゃん、イキそうだったから……」
655

656 ミキ 「なん、ど」
657

658 先輩 「じゃあ、私の女になるっ。」
659

660 ミキ 「ぞ、んな」
661

662 先輩 「じゃあ、終わりにしよう。目合わせの感じもわかったし……」
663

664 ミキ 「……ああ……。 （10秒程・発情息AD・音無し）」
665

666 先輩 「んん？ なに？ じっと見て。ちゅー？ うふふ……いーよ
667 （キス）んっ……」
668

669 ミキ 「（10秒程・発情キスAD・声無し）」
670

671 先輩 「（キスAD）んふふ、どうしたの、積極的じゃん……」
672

673 ミキ 「（キスしながら）はむっ……んっ………なんで、こんな意地悪……
674 もうちよっと、だったの、じゅ……いっ……んあっ……
675 （キスやめ、自分で慰めはじめる）ッッ……んん……」
676

677 //SE オナニー水音
678

679 ミキ 「っはあ、ンあ……あっ（べそかき始める）ひど、いじゃない……ですか
680 あ……っ。原稿しなきゃ、なのに……先輩が……先輩があ……んっ、んん
681 っ……あう……んん」

682
683 先輩 「あーあー……自分ではじめちゃって……。
684 傷つくなあ。そんなに私のモノになるの……嫌？」
685

686 ミキ 「や……な、わけ……ない、じゃない……です、か……」
687

688 先輩 「……え？」
689

690 ミキ 「(オナニーしながら) やじゃないから、嫌なんです……っ！
691 先輩の女とかじゃなくて……そういう、雑なヤツじゃなくて……！
692 ……私のこと、ちゃんと、好きになって……私のこと、彼女って、言っ
693 てくれたら……あ、んっ……」
694

695 先輩 「ミキ……ちゃ……」
696

697 ミキ 「(オナニーしながら) 先輩の女になんかならない……！
698 ……彼女に……彼女に……ったわい……っ！」
699

700 先輩 「……………う、ん。これは、参った。落ちました。
701 私の彼女に……なっ」
702

703 ミキ 「(抱きつき息AD) せんぱい……………！(キス) んっっ！
704 (10秒程・ラブラブキス息AD・声有)」
705

706 先輩 「(受け止め息AD) んちゅっ……………あむっ、んちゅる
707 (10秒程・ラブラブキス息AD・声有)」
708

709 ミキ 「んはっ……………せ、んぱ……………い！ イカせて……………いっぱいイカせて！
710 ……もう、我慢できな、い……………」
711

712 先輩 「んんんー!! なんなの、可愛すぎるよおおー！
713 ぐちゃぐちゃっっっあげるっ……………！(キス) んんっ……………」
714

715
716
717 //SE 取合むせ水音

「はあ！あああ！っ……………！ は……………あ……………あああ！っ……………！

721 ミキ 「せ、んぱ……しゅき…んちゅっ、しゅ、きいい……しゅきっ、しゅき
722 っ、しゅきっ、しゅきっ、しゅきっ、しゅきいいいっ……ツツ…んああ
723 あ……っ！ んはあ、ぎ、もちいい……いい、いい、いい、いいい
724 ……気持ちいい……、気持ちいい……っ気持ちいい……っも、お……バカに、
725 なっちゃ、うううう……んあああ、んあああ、いい、いい、んあああ」

727 先輩 「んあう、んう、すい……ッッ！ ミキ、ちゃん……すい、い、スケベ
728 ……じゃん……！ マジで、エロ……んう、んちゆるる、んはっ、私、の……
729 ……彼女……ヤバ……エロ、い……よお……っ！ 大好きいい……っ！
730 あむん、んんっ、んちゆるるっ」

732 ミキ 「……んはっ、せんば……っ、……んん、……ミキって呼んで……ミキって
733 ……呼び捨てが……いいっ……んはあ、はあ、んあ、はあはあ」

先輩 「んん……。ミキ……。ミキ……。あむん、ちゆるる、んちゅつ、ミキ、大
好き……。かわいいっ、ミキ、ミキい……。っはあはあはあ」

「んはあう、んくうっ、耳もとで……なま、え、呼ばれると……
腰、ゾクゾクくる……ンあ、んくうっ……」

741
先輩 「んあ、はあ、ん…あ、…ミキ…わた、し、もう…ヤバ…い…」

ミキ 「んはあ、イキそ……？ その顔……先輩、の、メス顔、かわいい……」
 743
 744 んあつ、はっ、その目……感じちゃう……んんっ、」

先輩 「んじゅるる、んはあ、はあ、あつ、もう……イ、ク……ミキ……ミキ……
746 ンあつ、はあああつ！ あああ……あ……あつはああ……あつあ……ああつ……
747 ……」
748

750 ミキ 「んうう……はあ、あああつ……は……せん、ぱああ……つあ……あつ……あつ……

751 ……あつ……あつ……あつ……先輩……わ、たし、も……もう、イキそ……うです……

752 ……っー」

754 先輩 「あー……あー……ミキ、気持ちいい、ミキ、きもち、いい……あ
755 あっ、イ、ク……イクイクイク……」
756
757 ミキ 「んはっ、せん、ぱ……一緒に……一緒に……一緒に……せ、んぱ
758 ……先輩……す、き……好き……あっあっあっ……！
759 せ、んぱ……イ、キます……！ ああっ！ ああっ！あああんんっ」
760
761 先輩 「私も、すっ……き……！ いいいいいっんああああんん
762 んー！」
763
764 ミキ 「ひああ、んあっ、あああああんんんっ！」
765
766 //SE 潮吹き
767
768 先輩 「……ああ、んあ……はっ……はっ……はあー……はあー……はあー……
769 ……はあー……」
770
771 ミキ 「ああ……んんっ……はあー……はあー……はあー……はあー
772 ……」
773
774 先輩 「ミキ……んっ（10秒程・余韻キスAD）」
775
776 ミキ 「あむ……んんっ、ちゅるっ、んちゅ……（10秒程・余韻キスAD）」
777
778 先輩 「んはあ……ミキ……♡」
779
780 ミキ 「……はい？」
781
782 先輩 「好き……」
783
784 ミキ 「えへへ……先輩……♡」
785
786 先輩 「なあ……？」
787
788 ミキ 「あと、40分です」
789

790 先輩 「へ？」

791

792 ミキ 「私の大好きな先輩なら……きっと書けます♡」

793

794 先輩 「あの……いや、今言ったばかりで……腰、抜けてんだけど……」

795

796 ミキ 「スマホでも書けます。ほら、がんばって……（ほっぺに）ちゅっ」

797

798 先輩 「んんん~~~~っ!? 実は……一番ヤバいのを彼女にしまったん
799 では……」

800

801 ミキ 「うふふ、ほらほら、諦めたら試合終了ですよっ♡
802 描きぎっちゃいましょー!」

803

804 先輩 「ええええええええー!!」

805

806 //SE セミの声

807

//SE 麦茶の氷溶ける音

808

809 ミキM 「このあと、めっちゃくちゃ原稿した。

810

そして、なんとか……入稿も間に合い、

811

二人でイチヤイチャしながら新刊売りました……とち♡」

812

813

814 //SE ヤミの音 f.o.

815

816

817

818

819

820

821

822

終わる

以上です、お疲れ様でした！